

トリプケースソイ寒天培地 (SCD 寒天培地) (TSA)

Trypcase Soy Agar (TSA)

栄養要求性の厳しくない微生物の分離

用途

トリプケースソイ寒天培地は、発育に際し特殊な要求性をもたない微生物の選択分離に使用する培地です(1,3)。本培地はヨーロッパ薬局方の B agar medium に相当します(4)。また、USP にも準拠しています(5)。

原理

本培地は複数のペプトンを含んでおり、これによりほとんどの栄養要求性の厳しくない微生物が発育します。

キット構成

	調製済み培地
REF43011	平板培地 (90mm) 10 枚 × 2 パック
REF43019	平板培地 (90mm) 10 枚 × 10 パック TSA*

*各シャーレに印字

組成

精製水中の組成 (g/L)

カゼインペプトン (ウシ)	15g
ソイペプトン	5g
塩化ナトリウム	5g
寒天	15g
	pH7.3

必要な器材

- 大気環境調整装置
- ジャー
- ふ卵器

使用上の注意

- *in vitro* 試験、微生物試験にのみご使用下さい。
- 熟練者をご使用下さい。
- 本製品は動物由来の原料を含みます。由来に関する知識、由来動物の衛生状態は感染性的のある病原体がないことを保証するものではありません。したがって、これらは潜在的に感染の可能性があるものとして、充分注意の上お取り扱い下さい(摂取または吸入しないで下さい)。
- 全ての検体、培養物および検体を接種した製品は感染性があるものとして適切にお取り扱い下さい。被検菌の無菌操作および通常操作の留意事項は以下のガイドラインをご参照下さい。安全ガイドライン: NCCLS M-29A, «Protection of Laboratory Workers from Instrument Biohazards and Infectious Disease Transmitted by Blood, Body Fluids, and Tissue, Approved Guideline – December 1997» 操作留意事項: Biosafety in Microbiological and Biomedical Laboratories, HHS Publication No. (CDC) 93-8395, 3rd Edition (May 1993)、または各国の規制ガイドラインに従って下さい。
- 培地を製造原料として使用しないで下さい。
- 有効期限切れの製品は使用しないで下さい。
- 包装が破損している製品は使用しないで下さい。
- コンタミネーションの起きている、または水分が浸出している培地は使用しないで下さい。

- 本培地は取扱い説明書に記載されている操作方法に従って使用して下さい。操作方法を変更すると結果に影響を及ぼすことがあります。
- 試験結果の判定の際には、患者の履歴、検体の由来、コロニー形態や検鏡結果、および必要に応じて行った他の試験結果を考慮に入れて下さい。

保管方法

- 箱未開封の状態、2-8°C下で有効期限まで保管可能です。
- 箱開封後、セロファン袋中では、2-8°C下で2週間保管可能です。

検体

臨床分野で使用する場合:

あらゆる種類の検体に使用可能で、直接接種します。検体の種類に応じて適切にお取り扱い下さい。

本培地は、純培養菌を得るための継代培養にも用いることができます。

産業分野で使用する場合:

トリプケースソイ寒天培地は、環境検査または非無菌製剤の検査における菌の分離または総菌数の測定に使用します。

使用方法

臨床分野で使用する場合:

1. 培地を室温に戻します。
2. 検体を接種します。
3. 適切な大気環境を用意します(必要に応じて大気環境調整装置を使用します)。
4. フタを下側にして 37°Cで培養します。最新の標準法に従い、用途に応じて適切な温度で培養して下さい。培養時間は検体および被検菌の種類により異なります。通常、24-48時間培養後に確認します。必要に応じて培養時間を延長して下さい。

産業分野で使用する場合:

1. 培地を室温に戻します。
2. 医薬品や化粧品中の中温菌の菌数測定用として使用する場合は、検体を培地表面に接種します。
3. フタを下側にして 30-35°Cで5日間程度まで培養します。最新の標準法に従い、用途に応じて適切な温度で培養して下さい。

それ以外の方で使用する場合は最新の標準法に従って下さい。

判定

- 培養後、菌の発育を確認します。
- 分離した微生物の同定には、観察結果をもとに生化学的試験や免疫学的試験を実施して下さい。
- 医薬品試験の際には、コロニー数をカウントして下さい。

品質管理

プロトコール:

培地の発育支持能は、下記菌株を用い試験できます:

- *Staphylococcus aureus* ATCC6538

判定:

33-37°Cで24時間培養後に被検菌が発育することを確認します。

コメント:

- 培地の用途を考慮し、適切な規制(頻度、菌株の数、培養温度等)に従って品質管理を実施されることをお勧めします。
- 本培地を菌数測定目的で使用する際には、調整した菌液(細菌は30-35°Cで、酵母やカビ(糸状菌)は20-25°Cで培養したもの)を用い品質管理を実施されることをお勧めします。

留意事項

- 発育の度合いは微生物各個体の要求性に左右されます。従って、特殊な要求性(増殖因子、温度、培養条件等)を有する菌株は発育しないことがあります。

性能

細菌 78 菌株(腸内細菌、*Pseudomonas* およびグラム陽性菌)および酵母・カビ(糸状菌) 5 菌株(*Candida*、*Saccharomyces*、*Aspergillus*)を用い、37°Cにて性能が評価されました。

発育支持能:

83 菌株中 79 菌株が 24 時間培養後に発育しました。
H. alvei 1 菌株と *R. apuatis* 3 菌株が 24 時間以内に発育しませんでした。




廃棄処理

使用の有無にかかわらず、他の汚染廃棄物とともに、感染の危険性のある物質の廃棄方法に従い廃棄して下さい。廃棄産物や流出産物は使用施設の責任の元、それぞれの性質や危険性の度合いに応じて適切な規制に従い廃棄して下さい。

参考文献

1. FINEGOLD S.M., MARTIN W.J., SCOTT E.G. - *Bailey and Scott's Diagnostic microbiology* - MOSBY - 1978.
2. Mac FADDIN J.F. - 1985 - *Media for isolation-cultivation-identification-maintenance of medical bacteria*, vol. 1, Williams and Wilkins, Baltimore.
3. MURRAY P.R., BARON E.J., PFALLER M.A. and al. - *Manual of Clinical Microbiology* - 6th Ed. - ASM Press, 1995 - ISBN 1-55581-086-1.
4. Pharmacopée Européenne 4 (2001).
5. USP XXV (2002).

記号

記号	内容
REF	品番
	製造元
	保管温度
	有効期限
LOT	ロット番号
	使用手順を参照
	試験可能数

(問い合わせ先)

製品関連

ビオメリュー・ジャパン株式会社

臨床(病院、臨床検査センターなど) TEL: 0120-265-034

産業(企業、保健所など) TEL: 0120-022-328

注文・納期・在庫関連

ビオメリュー・ジャパン株式会社

TEL: 03-6834-2666(代表)

*本添付文書は、下記 Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.biomerieux-jp.net/>

ビオメリュー・ジャパン株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂二丁目 17 番 7 号赤坂溜池タワー2 階

Tel: 03-6834-2666 / Fax: 03-6834-2667

<http://www.biomerieux.co.jp>



bioMérieux SA

376 Chemin de l'Orme

69280 Marcy-l'Etoile/France

Tel.33(0)4 78 87 20 00 /

Fax33(0)4 78 87 20 90

<http://www.biomerieux.com>



BIOMÉRIEUX